

令和6年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和6年6月6日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学病院3階がんセンター及び各施設（ハイブリッド会議）

出席者：11名

〈がんセンター・8名〉

玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、上原弘美（友愛医療センター）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、友利晃子（琉球大学病院）

〈ZOOM参加・3名〉

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、田場純子（沖縄県保健医療部）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：5名

伊禮智則（那覇市立病院）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）、西村克敏（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、有賀拓郎（琉球大学病院）

陪席者：2名

砂川華（琉球大学病院）、松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和5年度第5回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和6年3月14日）

資料1に基づき、友利委員より、令和5年度第5回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. 今年度の部会委員一覧

資料2に基づき、友利委員より今年度の委員の変更について報告があった。患者会のキャンサーフィットネス認定インストラクターの間島奈央子委員と、沖縄県保健医療介護部の田場純子委員が承認された。

【協議事項】

1. 部会委員及び部会長の選定について

資料2に基づき、友利委員より、これまでの委員選任の経緯説明があり、今年度の部会長・副部会長が任命された。

部会長 琉球大学病院 友利晃子

副部会長 県立中部病院 玉城佐笑美、那覇市立病院 仲宗根恵美

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）における進捗評価について

増田委員欠席の為、次回協議することとなった。

3. 上記進捗状況に基づいた今年度の部会活動計画について

資料4に基づき、友利委員より、令和6年度の部会活動計画が提案され承認された。今年度の部会活動計画は、ロジックモデルを基に前年度協議した内容やアンケート結果を反映し立案したと説明があった。

仲宗根委員より、活動計画の施策(2)について、那覇市立病院では立ち寄らなければならないシステムがまだ構築できていない。また、来所者数の増加を図るのは、相談センターへの来所者数だけでいいのか、診断を受けた数に対しての割合についてなのか、共通の見方を決めていく必要があると述べられた。友利委員より、琉大病院では医師の声掛けと電子カルテで予約を入れてもらい、来室した数を集計している。分子は来室者数で分母は院内がん登録の琉大病院で新たに登録のあった数で割合を出している。今後、全国の状況も報告していきたい。周知の仕方については、予約方法の資料を作成し医局回りし周知していると回答があった。

玉城委員より、中部病院ではがん相談の予約はできるが、がん相談センターの周知が目的の予約システムは構築できてなく、初回治療前がどのタイミングかまだ整理できていない状況である。また、相談センターに立ち寄った数について、化学療法室や外来で相談センターの説明を行ってもカウントされないのかと質問があった。

友利委員より、新整備指針以降は、原則として相談センターまで実際に来た数をカウントしていると回答があった。仲宗根委員より、化学療法中に相談センターまで立ち寄るのが大変な患者さんには、場所を印刷した用紙と口頭で窓口の説明でもいいのではないかと意見があった。必ず立ち寄った数というより、周知が目的であればその人数をカウントしていいのではないかと意見があった。大久保委員より、整備指針上、一度は相談センターを訪問することとなっており、当院も化学療法室のスタッフや外来看護師さんから相談室の利用を声掛けしているが、チラシだけでは印象に残りにくく、つながりにくい現状があったが、予約システムの導入後は相談センターの場所を実際に確認することで患者さんの印象に残り、次の自主的な相談への行動につながる面もあると感じていると意見があった。また予約については、医師やクラークが入力したり、看護師の誘導で来室した方は相談センターで入力も行っているとのことだった。琉大病院の砂川看護師より、各施設のがんに関わる看護師と協力することで、相談センターの周知が広まっ

ていくのではないかと意見があった。

4. 沖縄県におけるがん相談員の研修の開催について

資料 5 に基づき、大久保委員より、今年度は年 2 回開催となっており、第 1 回は 9 月 7 日に「アピアランスケア～脱毛・乳房切除術後の情報提供・相談支援について考える～」をテーマとし、場所は那覇市立病院で開催と報告があった。研修の目的と学習目標、プログラム内容について説明があり、部会委員へはグループワークでのファシリートの協力依頼があった。第 2 回については、過去のアンケートを参考にしつつ、部会委員からも取り上げたいテーマをご提案いただきたいこと、集合やオンライン等の開催方法を検討していくと説明があった。

上原委員より、拠点以外の非拠点病院が研修に参加しやすいように、県からの受講推奨等があると重要性や士気が高まるのではないかと意見があった。

「沖縄県アピアランスケア支援事業」に関して、玉城委員より、乳がんの補正下着だけの補助はなく、下着と補正用具のパットが一緒でないと助成は受けられないとの事だが実情はどうか質問があり、田場委員より、補正下着だけでなく、補正パットと人口乳房が対象の為、一緒であれば補正下着も対象となっていると回答があった。

仲宗根委員より、病院で手術後の補正下着として販売されていたが、市の担当窓口からは胸帯のため補助の対象外であると一度断られた事例が報告された。後日、話し合いの結果認めてもらえたが、補正下着と認められる物や認められない物を写真などで分かりやすく示していただきたいが、現時点でその準備や予定はあるのか。また、補助の対象について質問があった場合、直接、県に問い合わせていいのか質問があった。田場委員より、写真など具体的なものはないこと、問い合わせについては、市町村が対応する事になっているが、状況によってはお受けいたしますと回答があった。

仲宗根委員より、意見交換の場をもうけていただきたいと要望があった。

大久保委員より、アピアランス支援事業・若年がん患者支援事業が各市町村で開始されているが、各病院の相談員は実施状況を各市町村のホームページをみて情報収集している状況であるため、沖縄県で支援事業を行う市町村の情報を掌握されているのであれば、リストを病院にも共有いただきたいと要望があり、後日、田場委員より回答いただくこととなった。

5. 中皮腫セミナー開催について

資料 6 に基づき、友利委員より、中皮腫セミナーについて説明があった。開催直前にコロナ禍で中止となっていたが、中皮腫キャラバン隊から企画の復活をさせたいとの依頼があった。7 月が中皮腫啓発月間ということで、例年東京・大阪等でイベントを開催。沖縄では 7 月 13 日に沖縄県立図書館で開催。主に、国立がん研究センターの専門医による講演と、患者の鹿川氏による特別講演や座談会を予定している。

【報告事項】

3. 地域統括相談支援センター活動報告

資料7に基づき、紙面報告となった。

4. がん患者ゆんたく会（1～3月）

資料 8-1～8-3 に基づき、令和5年1月～3月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。1月は琉球大学病院の砂川看護師によるアピアランスケアの講習会を開催。ハンドケアや保湿ケアのポイントを教えていただいた。2月は「もしバナカード」というゲームをし、ACPを考えながら行った。3月はフリートークでスキンシップやハグについて話題があがった。那覇市立病院は糸数委員より報告があった。1月は琉球大学病院の砂川看護師を招いて「病気になっても自分らしく過ごすためのコツ」について講演をしていただいた。爪のケアでお困りの患者さんに砂川看護師が直接手に触れて見て頂いた。また、乳房切除後のバスタimeカバー着用可能施設の紹介や絵本の紹介があった。3月は、口腔外科の医師と歯科衛生士による講演を行った。歯科衛生士がうがいの仕方を実演したり物品の紹介があった。琉球大学病院は友利委員より報告があった。感染対策でパーティションを設置しているが参加者から話しづらいとの意見があった。今後設置なしを検討していきたいが、感染が増加傾向にある為検討中である。今期はパンキャンジャパンの豊見山さんの講演や栄養士による講演、またカラーセラピーのワークを開催した。副作用についての話題が多く、患者さんと情報共有し講師や栄養士に質問や相談をしていた。八重山病院は岩崎委員より、奇数月の第4金曜日に定期的で開催予定と報告があった。5月は薬剤師による講演を開催し、参加した患者さんが直に薬剤師に相談することができとても良かったと感想があった。次回は、お薬の専門的な事だけでなく、患者さんが仕事をしながら頑張っている様子など紹介していきたい。その他、キャンサーフィットネスの間島委員より、7月と8月開催のマインドフルネスヨガについての周知依頼があった。

5. がん相談件数（1～3月）

資料 9-1～9-6 に基づき、令和6年1月～3月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

70代80代の相談が多い。独居や高齢世帯が多いため介護の相談が多い。在宅で訪問診療の相談があったが、遠方の為訪問診療の対応できる施設を探すのに難航した。また、診療所で対応できない薬があり当院と連携をとりながら対応した事例があった。ホ

スピスや緩和ケア病棟の入院希望がかなり増加している。北部の療養型は面会ができないため緩和ケア病棟の相談が増えている。

○県立中部病院（玉城委員）

不安・精神的苦痛の相談が多く、院外通院中で当院へセカンドオピニオンの相談があった。がん遺伝子パネル検査が始まり、経済的な負担も考慮しながら関係部署と連携を取りながら対応した。標準治療が終了している患者さんが受けるため、気持ちのケアを緩和の看護師と協力しながら行っている。

○那覇市立病院（糸数委員）

3 カ月間大腸がんの患者が多かった。がんの治療や手術、放射線治療は専門の看護師が対応し、制度や生活の話はソーシャルワーカーが対応している。一部、限度額認定証について看護師が基本的な部分を説明してくれた事があった。在宅診療の相談では、相談依頼を WEB のシステムから受け付けできる訪問診療所がありスムーズに回答が得られるため増えている。

○県立宮古病院（横田委員）

相談内容にほとんど変化はなく、40 代 50 代の相談者が多い印象。お子さんのあるターミナル期の患者さんについては、地域連携室のソーシャルワーカーや児童相談所と連携し対応している。今後このような相談が増加傾向にある印象。

○県立八重山病院（岩崎委員）

相談内容に変化はなかった。遠方在住でターミナル期の患者さんを、当院で診療することになり数時間かけて往診をした患者さんがいた。また、受診に拒否的な患者さんに献身的に対応することで、だんだんと受け入れてくれ看取りまで対応した印象的な事例があった。

○琉球大学病院（大久保委員）

相談内容は在宅療養やホスピス、終末期に至る経過の心理的な支援やサポート、具体的な在宅調整の支援が多かった。治療開始前や治療中の来所が増加している為、医療費や漠然とした今後の不安の相談が多い。相談内容の「その他」の項目が増加しているのは、治療開始前までに立ち寄りした方で、相談支援センターの内容と希望があれば相談対応することの説明を行った数を件数にいている。今期も他院通院患者等からの相談では、受診に関する事やがんの治療について、アピアランスの相談があった。また、アピアランスケア相談会を開催しており、90 分間と短い時間だが自院・他院の患者さんの相談があった。今年度も 4 回開催予定となっておりホームページでも周知してい

るので患者さんにご案内いただきたい。

6. がん相談件数集計（令和5年度）

資料10の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき友利委員より報告があった。

各病院とも利用回数はリピーターが多く、担当医からの紹介が増加している印象。治療状況では、治療前の方が前年度と比べると増えている印象。がんの状況は、再発・転移も多いが初発も同じ位か超えている状況であった。がんの種類では、各病院とも大腸がんが多く、次いで肺がん、乳がん、膵臓がんが多い。相談内容では、不安・精神的苦痛の相談が最も多く、次いで在宅医療やホスピス・緩和ケアの相談となっている。

その他、糸数委員より、北部地区医師会病院の患者さんでホスピスを希望される場合、どこの病院を紹介しているのか、また、複数希望するのかと質問があった。仲村渠委員より、沖縄病院とアドベンチストが多いが、高齢者が多いため、緩和ケア病棟に問合せし早く対応できる施設に相談するケースもある。また、高速道路から降りて近くの施設を希望するなど交通の面で考える方が多い。家族には第3希望まで考えるよう提案していると回答があった。

7. がん相談支援センターの広報

資料11に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。毎週掲載するよう依頼することにより電話相談が増えている印象。引き続き広報依頼を行う。

8. アピアランスケアの啓発チラシについて

資料12に基づき、琉大病院の砂川看護師よりアピアランスケアの啓発チラシについて説明があった。アピアランスケアについて相談できる窓口と相談内容を掲載しており、相談の内容によって専門の施設や医師、看護師につないでいただきたいとアナウンスがあった。後日、各施設にチラシとポスターを送付するので掲示と周知依頼があった。

9. その他

上原委員より、11月9日、10日に開催のリレーフォーライフへの展示について提案があった。相談センターの紹介ブースを展示し広報することで、患者会に知ってもらういい機会になるのでご検討いただきたいとアナウンスがあった。

- ・次回開催は、令和6年9月12日(木)、14時から開催。